日米DT&RT交流フォーラム

Japan–US Diversional & Recreational Therapy Exchange Forum

企　画　書

2026 年 8 月 7 日

特定非営利活動法人 日本ダイバージョナルセラピー協会

日米ＤＴ＆ＲＴ交流フォーラム

Japan–US Diversional & Recreational Therapy Exchange Forum

日本では高齢化の進行に伴い、高齢者ケア・認知症ケア・生活支援・自立(自律)支援・ＱＯＬ向上のための非薬物的アプローチが重要性を増しています。一方、米国ではレクリエーショナルセラピー（ＲＴ）が医療・福祉領域で確立された専門職として発展しており、「楽しむことはすべての人に与えられた権利である」という社会的認識に根差し、政策においても「活動サービス(Activity Provision)を「入居者の QOL を支える中核サービス」と位置づけて、最期まで楽しく自分らしく生きることを支援する実践が広く行われています。また近年、米国はじめカナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドそして日本も含めてその分野の国際連携が進展し、交流や国際カンファレンスも頻繁に行われています。(本書では、ＲＴは Therapeutic Recreation、Activity Provision、Diversional Therapy 等の総称とします)

本フォーラムでは、米国のＲＴ実践者の組織である「全国アクティビティ専門家協会（National Association Activity Professionals／NAAP)」から３人の理事を迎え、「国際的な相互理解」「実践・知識の共有」を目的に日米の同分野の実践者が一堂に会し、高齢者及び各世代へのケア・認知症ケア等における実践力向上と介護・地域福祉・医療現場への還元、国際的なネットワーク構築と継続、さらに日本における“誰もが最期まで楽しく自分らしく”生きられる社会的認識の醸成を目指します。

何卒ご参加、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

開催日時　2026 年 11 月 14 日(土)　10：00～17：00

会　　場　ＴＫＰ浜松町南口ビジネスセンター／東京都港区浜松町 2-8-14 浜松町 TS ビル 3 階

主　　催　特定非営利活動法人 日本ダイバージョナルセラピー協会（Diversional Therapy Association of Japan/DTAJ）
本部・事務局／〒630-0256 奈良県生駒市本町６－４ Ｄ＆Ｄビル３Ｆ

後　　援　東京都
公益財団法人　フランスベッド・ホームケア財団
National Association of Activity Professionals（NAAP,　全米アクティビティ専門家協会）

参加対象　ダイバージョナルセラピーワーカー、介護・リハビリテーション・福祉・医療従事者、レクリエーショナルセラピー関係者、行政・教育機関等、分野を問わずご参加いただけます。

参加人数　100 名

参 加 費　日本ＤＴ協会会員：無料、非会員：2,000 円　☆フォーラム後に懇親会を開催：参加費：5,000 円（費用はいずれも当日現金にて）

＜プログラム（予定）＞

１．開会挨拶
　日本ダイバージョナルセラピー協会 理事長 芹澤隆子

２．ショートレクチャー
　「ＤＴ/ＲＴの国際交流と日本におけるＤＴの現状と展望」芹澤隆子

３．基調講演Ⅰ 福井小紀子氏「生活の質を重視する政策動向とＤＴへの期待（仮題)」

福井小紀子先生

東京科学大学 保健衛生・看護先進科学専攻 教授
2013 年度一現在　厚生労働省老健局 厚生労働省社会保険審議会専門委員（介護給付費分科会）専門委員
2026 年 05 月-06 月　厚生労働省老健局「適切なケアマネジメント手法普及促進（広報）事業提案書審査委員会」委員長
2025 年度　厚生労働省老健局「一部の福祉用具に係る貸与と販売の選択制の導入に関する調査研究調査検討委員会」委員長

４．基調講演Ⅱ（逐次通訳あり）
　「米国におけるＲＴの社会的背景と NAAP の歴史とその実践（仮題)」
　Colleen Keegan：National Association of Activity Professionals/全国アクティビティ専門家協会 海外開発ディレクター

５．日本のＤＴワーカーによる実践発表（ウィスパーリングによる和英通訳）
　社会医療法人 豊生会グループ
　社会福祉法人 東京聖労院
　株式会社 ホームケアサービス山口
　医療法人社団仁誠会
　社会福祉法人　湘南愛心会
　コメンテーター：Colleen Keegan、Vanessa Emm、Cindy Tewalt（NAAP 各ディレクター）

６．交流セッション
- 日米のＤＴＷと Activity Professionals による意見交換
- 介護現場におけるアクティビティ＆ライフスタイルへのスキルアップの検討・提案
- 今後のネットワーキングの発展にむけて

Colleen Keegan
Outreach Director

＜期待される成果＞

- ＤＴ＆ＲＴの互いの知識を深め合い、現場で活用できる実践力を高める
- 「楽しむ」ことへの専門性を尊重する社会的認識を高める
- 国際的な広い視野を持つ人材育成

ダイバージョナルセラピー（DT）とレクリエーショナルセラピー（RT）について

ダイバージョナルセラピー（DT）はオーストラリア（シドニー）の赤十字のリハビリテーション分野で、工作やレクリエーションによる訓練を担当していた職員たちが専門教育を受けて 1976 年に「ダイバージョナルセラピー協会」を設立し、専門職として各州に普及しました。（少し遅れてニュージーランドでも）。RTは欧米で発展してきたもので、どちらもアセスメントをベースに、“根拠と意味のある楽しさ”やその人らしいライフスタイルの継続を支援するものであり、それを求めることは全ての個人の権利であるとの認識のもと、多様なプログラムや手法を用いて心身の自立性を支援します。その中心的実践は「楽しさ、ライフスタイル、チョイス、コミュニケーション、五感へのアプローチ」等を要素とするレクリエーションやアクティビティです。日本では日常のライフスタイルにも重点が置かれています。

2017 年ころから同分野の国を越えた連携が進み、国際交流が広がりました。現在連携する6カ国の中で、日本以外はすべて専門職として認められ独立した職業として活躍しています（コロナ禍ではエッセンシャルワーカーとしてレクリエーションを提供し続けた）。

アメリカでは 1987 年、包括予算調整法（OBRA ’87） により、 メディケア／メディケイドの給付を受けるすべての長期療養施設（老人ホーム等）は、入居者の身体的・心理的・社会的な Well-being を維持するための「活動（Activity）サービス」を提供することが連邦法で義務づけられています。さらに、アクティビティ部門の責任者（Activity Director）については、 州が定める資格（例：州認定 Activity Professional）、または NCCAP（National Certification Council for Activity Professionals）など、連邦基準に適合した全国資格を満たす「有資格専門職」であることが求められます。

日本では国家資格等の認定はありませんが、介護・看護職やリハビリテーション等の資格を持つ人々が、日本DT協会のダイバージョナルセラピーワーカー養成講座を受講、認定試験を経てオーストラリア・レクリエーショナルセラピー協会と共同認定する資格制度が運用されており、現在認定されたDTワーカーは 540 人余です。高齢者介護施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム等）、小規模多機能型居宅介護、通所介護またはリハビリテーション施設、認知症病棟、透析クリニック等で活躍しています。